都難言協会報

東京都公立学校難聴・言語障害教育研究協議会

難言学級の啓発のために ～管理職の立場から～

東京都公立学校難聴・言語障害教育研究協議会
顧問　森　真二（あきる野市立前田小学校長）

コロナ禍の学校再開から、難言学級の先生方も、通級指導の安定化に向けて試行錯誤の取組みを続け、努力を重ねてきました。

通常学級の先生方に、通級制度の意義や難言学級の具体的な仕事を正しく理解してもらうために、難言学級担任として目指し取り組んでほしいことを、管理職の立場から考えてみました。

Ⅰ　難言学級通級児童の困り感は管理職の課題になりにくい

授業に集中できないなどの不適応行動や学力面での大きな遅滞、いじめにつながるような児童同士のトラブル、登校しぶり、そして該当児童への指導・対応に保護者が納得してもらえないケースなど、児童が抱える困り感は学級担任の困り感に直結し、管理職にとっても対応をせまられる喫緊の課題になります。

一方、難言学級の通級児童は、きこえやことばに対する子供自身の困り感が課題なので、周りに迷惑をかけたり、生活指導面で問題になったりすることはほとんどなく、管理職の課題になりにくいと言えます。

Ⅱ　設置校の教職員に通級制度を正しく理解してもらう

だから、難言学級担任は、設置校の教職員全員に、地区の代表校として設置してある通級制度の意義やしくみ、対象児童の障害について、正しく理解してもらうために、より丁寧な説明が必要です。

また、設置校児童への理解教育や保護者との教育相談、相談機関の紹介や医療との連携なども、積極的に行うことが大切です。

さらに、設置校以外の学校には、在籍校訪問や土曜公開相談、地区一斉相談等の説明を行いながら、「頼りがいのある難言学級」という地区での存在感をアピールし、位置づけていくべきだと思います。

そして、設置校の管理職の先生方には、都難言協でしか学べない貴重な研修会である「基礎・専門研究会」をはじめ、横の繋がりから学べるＯｆｆ－ＪＴの場である「地区研究会」の意義を十分に理解し、研修会への参加を推進していただくとともに、「設置校長部会研究会」を、研修はもとより、設置校の諸課題について情報交換できる貴重な場として、積極的に活用していただきたいと思います。

Ⅲ　特別支援教育コーディネーターのリーダーとして

「あくまでも通級指導が優先で、できる範囲で行うこと」が前提ですが、設置校児童への授業支援や個別指導、学校行事や校外引率の補助、保護者面談時の付添いなどを通して、児童理解をさらに深め、校内委員会の調整や巡回相談での立ち会い、特別支援教室との連携、そして、相談・医療機関への紹介や学級担任のアセスメント・支援計画作成指導など、難言学級の先生方が積極的に企画立案して実施していけば、必ず学級担任から頼られる存在になり、管理職の信頼も深まっていくはずです。

Ⅳ　特別支援教育のスペシャリストに

学級担任から頼られ、管理職からの信頼を得て、地区での存在感を確かなものにしていくためにも、難言学級担任としての専門性に留まらず、情緒障害も含めた「特別支援教育のスペシャリスト」を目指し、大いに活躍してほしいと思います。

◆主な内容◆

一面　難言学級の啓発のために
二面　連携―通級学級の専門性を生かして
　　理解をより深めてもらう大切さ
三面　書籍紹介　入門編
四面　学級紹介　研究発表について　他

ホームページのご紹介

都内９４の小中学校に設置されているきこえの教室・ことばの教室についてお知らせするホームページを開設しています。広報誌、理解啓発のためのパンフレットなども公開しています。また、会員向けには、一早い情報共有のためにLINEアカウントを作りました。会員のページから友だち追加ができます。ご活用ください。

https://www.tonangen.com/

連携―通級学級の専門性をかして

立川市立第八小学校
長沼 由紀 先生

三十年余りの『きこえとことばの教室』の担任としての仕事は、振り返れば、通常学級の先生方との連携の歴史でした。通級している子ども達の指導や保護者の皆様との面談に力を注ぐのが第一ではありますが、在籍校の先生方の協力や配慮なしには指導の効果も上がりません。きこえとことばの教室の指導は、医療など他の機関での支援とは違います。発音だけを治して終わり、吃音軽減の指導と心理面へのアプローチをしていればよい、ことばの発達の促進や読み書きの不得手さを補う指導をすれば済む、というものではありません。教育現場にいる私たちだからこそできる支援があります。在籍学級担任もきこえやことばに障害のある子ども達にどのような配慮が必要か困っている場合もあり、その子どもの障害の状況や支援の仕方などについて説明をすると安心されます。専門的な視点で丁寧に説明をすることが大切で、「通級の先生に相談して良かった」と思ってもらえ、「では、こんな工夫が考えられる」と双方で連携して対応できます。通級している子ども達が社会的場である在籍校で生き生きと自己を発揮して生活・学習できることが私たちの願いでもあります。そのためには、きこえとことばの教室の担任である私たちが、専門的知識・技術を身に付け、高い専門性を生かして在籍校の先生方と協働して支援を進めていくことが大切です。また、私たちが培った専門性は、校内にいる通常学級の子ども達の支援にも生かすことができます。コーディネーターとして、またはＯＪＴの機会を生かし貢献できます。その連携が、再びきこえやことばの面で支援が必要な子ども達の通級にもつながっていきます。学校内にあるきこえとことばの教室のメリットを最大限に生かすことができます。

理解をより深めてもらう大切さ

稲城市立向陽台小学校
櫻澤 浩人 先生

複数のことばの教室で、六年生で初めて相談に来る吃音のある子ども達に出会いました。子ども達は「どもることがばれないようにしてきた。」と教えてくれました。「吃音を意識させることはいけないこと」というとらわれが、周囲の大人に未だあり、子ども達は「ことばが出ない」と一人悩んできたようです。保護者が担任に相談しても、音読では吃音になりにくく、会話では吃音が出ないように短く返答するにとどめている場合、担任はなかなか気づけません。心配を軽減してあげようと、「学校で吃音は出ていなくて、友達とも楽しそうです」そう言ってくれる先生。保護者も「先生が大丈夫と言ってるから大丈夫」と、時間が経ってしまったようです。自分を抑える日々を過ごしてきたその思いを想像し、「一人悩んでいる子どもが繋がれるように、発信をもっとしなくては」と考えました。それまでも教室通信で「吃音」のことを発信していました。指導を誠実に真摯に行なっていく中で、親子、担任に信頼され、口コミで吃音のある子がことばの教室に繋がる事も多くありました。しかし、繋がらない子がいるという事に、他の方法も考えなければならないと思いました。養護部会、校長会、幼・保の会、校内研修会等で吃音について話す機会をもらいました。実施後に明らかに吃音のある子が多く繋がるようになったとは言えません。ただ、「きこえとことばの教室」担当者として、指導と共に、発信もし、一人悩んでいる子がいたら繋がれるようにしていきたいと思います。また、都の「就学相談の手引き」には、ことばの教室の指導対象者として「学習障害者」と明記されていますが、それも浸透していると言えません。正確な情報を発信し、教室への理解を深めてもらうことも我々の大きな仕事と思います。

初めて難言学級を担当される先生方へ

明日から使える！！書籍紹介

入門編

～ 構音障害 ～

「側音化構音と口蓋化構音の評価と指導法」
山下夕香里・武井良子・佐藤亜紀子・山田紘子／著

令和２年９月に発売された最新刊の指導本です。写真やイラストが多く、各指導法が分かりやすく解説されています。

「構音障害の指導技法」 涌井豊／著

「構音障害のある子どもの理解と支援」
加藤正子・竹下圭子・大伴潔／著

構音指導の基礎・基本の指導書です。

～ 吃　音 ～

「子どもの吃音サポートガイド」
小林宏明／著

場面ごとの合理的配慮・支援方法がイラスト付きで書かれていて、分かりやすいです。

「子どもの吃音 ママ応援 BOOK」
菊池良和／著　はやしみこ／イラスト

吃音のことが漫画で分かりやすく書かれているので、お子さんと一緒に読みやすい本です。

「エビテンスに基づいた吃音支援入門」
菊池良和／著

エビデンス（科学的根拠）に基づいた研究がそのまま、指導の中で生かせます。ことばの教室で吃音に携わる先生、必読です。保護者の疑問にも、根拠に基づいた話ができます。

～ 言語発達　他～

「子どものこころとことばの育ち」
中川信子／著

その子らしさを認めゆっくりとことばを育むためには…（「ことばのビル」も掲載）

「発達障害の子を育てる本 スマホ・タブレット活用編」
中邑賢龍・近藤武夫／監修

すぐに使えて、一生役立つ支援ツールの徹底活用法が掲載されています。

「ビジョントレーニング」
北出勝也／監修

視覚機能の観点から、発達の気になる子の学習・運動が楽しくなるトレーニングが紹介されています。

「学びにくい子への『国語・算数』つまずきサポート」
村井敏宏・山田充／著

日記や作文、ノートやテストなどの中の誤りの傾向を分析し、学習支援につなぐため無理なくアセスメントができます。

～ 難　聴 ～

「難聴児・生徒理解ハンドブック」
白井一夫・小網輝夫・佐藤弥生／編著

難聴児が通常の学級で授業を受ける際の合理的配慮について分かりやすくまとめられています。

「新版・きこえにくいお子さんのために…」
全国早期支援研究協議会／編

軽中度難聴児のためのサポートブックです。難聴児や保護者の貴重な経験談や丁寧な解説が載っています。

「こどものきこえ小百科」
さっぽろ子どもの聞こえ相談ネットワークをつくる会発行

子どもの難聴の発見と支援に関する様々な情報を掲載した本です。難聴に関する基礎知識や支援方法、検査の種類や制度のことまで書かれた小冊子です。

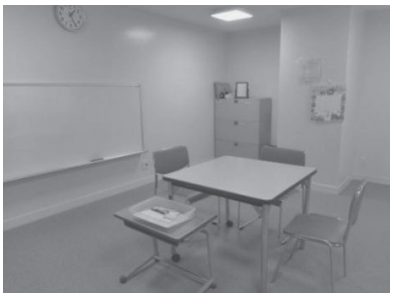
◇ 学級紹介 ◇

立川市立第八小学校　きこえとことばの教室

けやき台小学校の統廃合に伴い、第八小学校に移転してから３年目になりました。新しくて整った教室環境の中で、児童は気持ちよく学習に取り組んでいます。

個別指導室は刺激のない落ちついた空間になっています。発音練習や言語指導など、児童の課題に応じた個別指導を行っています。広いプレイルームが２つあります。トランポリンやブランコなどの遊具があり、サッカーや野球を楽しむこともできます。遊びを通して安心して会話を楽しんだり、運動が苦手な児童は感覚統合などに取り組んだりしています。グループ室は、パーテーションをしまうと広い空間になります。難聴や吃音のある児童、コミュニケーションに課題のある児童のグループ指導を行っています。

移転以来、校内通級児がとても増えました。例年は、交流会の「夏祭り」やグループ指導で準備した「カフェ」に校内の先生方にもたくさん来ていただいています。



◆ブロック研究発表について◆

今年度のブロック研究発表は、感染症拡大防止の観点から以下のように変更になりました。

城西ブロック

紙面発表とする。

・発表テーマ
「話す力を高める指導」

多摩北ブロック

紙面発表とする。

・発表テーマ
「ことばの教室における
効果的な構音指導」

中学ブロック

令和３年度に延期。

※尚、紙面発表は３月中に都難言協ホームページにデータを掲載します。

事務局より

今年度の事務局では、新型コロナ感染症対策による三密防止の観点から、メールやホームページの活用を充実させることで、他団体との連携、そして都難言協の活動の推進に尽力いたしております。

都難言協は各区市の分担金や東京都教職員研修センターの研究奨励費と、会員の方々の協力によって支えられています。より質の高い研究を進めることにより、「通級指導学級」制度の維持・発展を目指しております。様々な課題が山積しておりますが、共にその解決に臨むべく、来年度も御協力をよろしくお願いいたします。

―編集後記―

今年度は専門研が中止となったため、一・二面は、昨年度の通級学級研の研修内容をもとに、講師の先生方に執筆していただきました。

ご多用の折り、原稿をお寄せいただいた皆様に厚くお礼申し上げます。

都難言協会報
代表者（会　　長）渡邊　俊一
責任者（広報委員長）山川　順子
発行日　令和三年一月六日
発行数　五七五〇部
印　刷　有限会社　正陽印刷